

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

| | | | |
|----|----|----|--------|
| 分野 | 演劇 | 種目 | ミュージカル |
|----|----|----|--------|

申請区分(申請する区分を選択してください。)

| | |
|------|------------|
| 申請区分 | A区分とB区分の両方 |
|------|------------|

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

| | |
|---------|---|
| 複数申請の有無 | 無 |
|---------|---|

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

| | |
|--------------------|--|
| 複数の企画が採択された場合の実施体制 | |
|--------------------|--|

| | |
|------------|--|
| その他を選択した場合 | |
|------------|--|

芸術文化団体の概要

| | | | |
|-------------------|--|--|--------------|
| ふりがな 制作団体名 | かぶしきがいしゃ とうきょうえんげきしゅうだん かぜ 株式会社 東京演劇集団 風 | | |
| 代表者職・氏名 | 代表取締役 浅野佳成 | | |
| 制作団体所在地 | 〒164-0003 | | |
| | 東京都中野区東中野1-2-4 | | |
| 電話番号 | 03-3363-3261 | FAX番号 | 03-3363-3265 |
| ふりがな 公演団体名 | とうきょうえんげきしゅうだん かぜ 東京演劇集団 風 | | |
| 代表者職・氏名 | 芸術監督 浅野佳成 / 劇団代表 柳瀬太一 | | |
| 公演団体所在地 | 〒164-0003 | | |
| | 東京都中野区東中野1-2-4 | | |
| 制作団体 設立年月 | 1987年 10月 | | |
| 制作団体組織 | 役職員 | 団体構成員及び加入条件等 | |
| | 代表取締役 浅野佳成 取締役 柳瀬太一/緒方一則/西垣耕造/ 佐藤春江 監査役 柴崎美納/津田純一(外部監査) | [団体構成員] 劇団員(専属契約)33名 俳優24名/スタッフ9名 [劇団加入条件] 実習生として1年の養成期間を経て入団。 その後3年間の研究生期間を経て劇団員となる | |
| 事務体制の担当 | 専任 | 本事業担当者名 | 江原早哉香 |
| 経理処理等の 監査担当の有無 | 有 | 経理責任者名 | 辻幸男 |

| | | | |
|-----------------------------------|---|---|--|
| <p>制作団体沿革</p> | <p>1987年 現代劇を上演する意図をもって劇団を創立。 全国の青少年に向けた巡回公演を開始し、現在まで継続する。</p> <p>1999年 劇団の拠点劇場〈レパトリーシアターKAZE〉を東京・東中野に建設。 地域に根ざし、観客との対話の中で質の高い作品を育てるレパトリーシステムを始動。</p> <p>2003年 2年に1度のビエンナーレKAZE国際演劇祭を開幕。以降、フランスや東欧等の トップアーティストとの交流・共同制作が、思考と試みを重ねる演劇創造へと発展。</p> <p>2017年 創立30周年として「パールを愛した女」(ブレヒト作/浅野佳成演出)「記憶の通り路」 (ヴィスニョック作/江原早哉香演出)等の新作・レパトリーを連続上演。</p> <p>2020年 手話や字幕、音声ガイドを演出に組み込んだバリアフリー演劇の全国展開を開始。</p> | | |
| <p>学校等における 公演実績</p> | <p>創立以来35年間、全国の学校・教育委員会と連携し、対話を繰り返しながら、 青少年に演劇を届け続けています。</p> <p>[これまでの実績・演目別上演回数] 『星の王子さま』延べ1500公演、『ヘレン・ケラー』延べ1600公演、『Touch』延べ1200公演 『ジャンヌ・ダルク』延べ330公演、『ハムレット』延べ230公演、『肝っ玉おっ母とその子供たち』延べ600公演 年間平均で全国約170会場(学校体育館・文化施設)で公演を実施。年間およそ13万人が鑑賞。</p> <p>[2020年の公演実績] 全国61会場 全84公演 ◇ 松兼功作『ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち』17会場 26公演/2019年からバリアフリー上演を展開 ◇ ライル・ケスラー作『Touch～孤独から愛へ』16会場 25公演/公演と併せ演劇ワークショップを実施 [2019年実績]全国192会場 全197公演 / [2018年実績]全国169会場 全191公演</p> <p>離島や被災地において、地域の教育機関・教育委員会・地域住民と協働し、継続した演劇公演の鑑賞参画機会を創出。まちづくり・多文化共生・地域課題などの解決へとつなげています。</p> | | |
| <p>特別支援学校に おける公演実績</p> | <p>すべての子供たちが共に「感動」と「希望」を抱き、自らの芸術性と出会えるよう工夫を重ね、 これまで延べ24校の特別支援学校で公演を行っています。</p> <p>[これまでの公演実績] 特別支援学校16校、盲学校3校、聾学校4校、病弱支援学校1校 全24校 北海道教育大学附属特別支援学校/盛岡青松支援学校(旧松園養護学校)/群馬大学教育学部附属特別 支援学校/群馬県立しろがね特別支援学校/群馬県立聾学校/群馬県立吾妻特別支援学校/群馬県立 高崎高等特別支援学校/群馬県立赤城特別支援学校/栃木県立那須特別支援学校/柏特別支援学校流 山分教室/岐阜県立聾学校/京都府立城陽支援学校/奈良県立聾学校・盲学校/三重県立特別支援学 校東紀州くろしお学園おわせ分校/岡山盲学校/倉敷市立倉敷支援学校/広島中央特別支援学校/山口 県立下関総合支援学校/琴の浦特別支援学校/児湯るびなす支援学校/福岡県立柳河特別支援学校/ 熊本県立天草高等学校倉岳校/宮崎県立都城さくら聴覚支援学校</p> <p>2019年から、福祉作業所との連携公演や、障害当事者との共同制作、情報保障(舞台手話通訳・ 字幕・音声ガイド)を演出に組み込んだ舞台づくりに取り組んでいます。 誰もが共に楽しめる“バリアフリー”な演劇づくりのために、研究会・上演を繰り返しています。</p> | | |
| <p>参考資料の有無</p> | <p>A</p> | <p>申請する演目のチラシパンフレット等</p> <p>申請する演目のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p> | <p>有</p> <p>有</p> <p>ID: _____ PW: _____</p> |
| | <p>Aの提出が困難な場合</p> | <p>今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p> | <p>ID: _____ PW: _____</p> |

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 東京演劇集団 風 】

| | | | | |
|-------------------------------|--|-------------|--|-----------------------------|
| 対象 | <input type="radio"/> | 小学生(低学年) | <input type="radio"/> | 中学生 |
| | <input type="radio"/> | 小学生(中学年) | | |
| | <input type="radio"/> | 小学生(高学年) | | |
| 企画名 | 全校児童生徒でつくるミュージカル | | | |
| 本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付 | 星の王子さま 原作：サン＝テグジュペリ 翻訳：内藤濯 構成・演出：浅野佳成 作曲：八幡茂 公演時間 (100分) | | | |
| 著作権 | <input type="radio"/> | 制作団体が所有 | 制作団体以外が所有する事項が含まれる | (制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況 |
| 演目概要 | <p>ちっぼけな星でたった一輪の花と暮らしている小さな王子さま ある時、王子さまは花と喧嘩をして星をめぐる旅に出ます 最後にやってきたのは地球 砂漠で、飛行士とキツネに出会った王子さまは 友だち かけがえのないもの はかないもの とは何かを知り、成長していきます そして一年が経ったある日、王子さまは地球で出会った友だちに別れを告げて 花のために自分の星へ帰ることを決心します たったひとりで力強く生きる王子さまが見つけた かけがえのないもの 今を生きる私たちに王子さまが語りかけます 「かんじんなものは目にはみえない 心で見なければ」と 地球と人間の美しさを描いたファンタジー</p> <p>1943年、第二次世界大戦の最中、作者サン＝テグジュペリはこの作品を残しました。 時代が流れるなかで、世界中の多くの人々を励ましている作品です。 東京演劇集団風の『星の王子さま』は、物語に散りばめられた「ものごとの奥深くにある真実、生きることの尊さを心の目で見てほしい」というメッセージを、ことばや身振り、音楽などでシンプルに描いています。すべての人を優しく劇世界に導き、観客に想像するよろこびを呼び覚ます作品です。(別紙:舞台写真をご参照ください)</p> | | | |
| 演目選択理由 | <p>王子さまは星をめぐり、様々な人と出会いのなかで、学び、成長していきます。 学校という場所で、友だちや先生と出会い、経験をともにしながら育てていく子供たちに、そのふれ合いのなかで生まれた、目には見えない思い出や時間をいつまでも大切にしてほしい——という願いを込めました。 『星の王子さま』は、すべての世代の人がそのときの感じ方や考え方で見ることのできる、無限の広がりを持った作品です。 子供同士、子供と先生、さらには子供と保護者との間に対話が生まれ、お互いを新たに発見するきっかけになると考え、本演目を選択しました。</p> | | | |
| 児童・生徒の共演、参加又は体験の形態 | <p>全校の児童生徒が『星の王子さま』を一緒につくる演技者・共演者となります。 演劇を間近に見ることにより、個々に湧き上がってくる感情や願い。それらを自分なりに表現して、俳優・スタッフと共に物語のクライマックスをつくりあげます。 最上級生全員が旅立ちの意志を歌にして舞台から客席へと届ける場面、先生方も活躍できる特別共演場面も用意しました。 本番の前後には、劇場空間をまるごと探検するバックステージツアー、照明・音響のオペレート体験等を実施します。 子供たちと先生のかげがえのない1日となるよう、一校一校のプログラムを作成します。 (別紙をご参照ください)</p> | | | |
| 出演者 | 白根有子／緒方一則／渋谷愛／工藤順子／栗山友彦／中村滋／白石圭司 ほか (バリアフリー版での上演では、舞台手話通訳・音声ガイドナレーターも同行します) | | | |
| 公演出演予定者数 (1公演あたり) | 出演者: 9 名 スタッフ: 15 名 合計: 24 名 | 機材等 運搬方法 | 積載量: 11 t 4 t 車長: 11.9 m 8.4 m 台数: 1台 1台 計2台 | |

| | | | | | | |
|--|--|---------------------------------|----------------------|------------|------------------------|---------------|
| <p>実施に当たっての 会場条件</p> | <p>実施条件等確認書①をご確認ください。</p> | | | | | |
| <p>会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安</p> | <p>前日仕込み</p> | <p>有</p> | <p>会場設営の所要時間</p> | | <p>計 5</p> | <p>時間程度</p> |
| | <p>到着</p> | <p>仕込み</p> | <p>本公演</p> | <p>内休憩</p> | <p>撤去</p> | <p>退出</p> |
| | <p>8時30分</p> | <p>8時30分～12時 (リハーサルを含む)</p> | <p>13時～14時30分</p> | <p>10分</p> | <p>15時～ 17時30分</p> | <p>17時30分</p> |
| | <p>※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。</p> | | | | | |
| <p>児童・生徒の 参加可能人数</p> | <p>ワークショップ</p> | | <p>～全学年(1000名程度)</p> | | | |
| | <p>本公演</p> | | <p>～全学年(800名程度)</p> | | | |
| <p>ワークショップ 実施形態及び内容</p> | <p>旅立つ王子さまを歌や台詞で励ますクライマックス場面の事前練習です。 作品の作者、あらすじや背景、子供たちが参加するシーンを丁寧に説明したのち、練習を行います。俳優がクライマックスの一場面を演じ、俳優の声と身振りがつくりだす演劇空間のなかで、子供たちも実演をしながら、演劇とはなにか、演じるとはどういうことかを体感するワークショップです。(詳細は別紙をご参照ください)</p> | | | | | |
| <p>ワークショップ 実施形態の意図</p> | <p>どんな子供も、年齢や障害に関わらず、誰もがさまざまな可能性を持っています。 本番に向けて、彼らの内にある力が自由に動き出す契機となってほしいと考えています。 俳優との「演じる」行為によって、子供たちと芸術の出会いがより身近なものとなること。 学校のみならず、そして先生とも一緒になって『星の王子さま』をつくるプロセスに関わることで、 みんなと力を合わせて取り組む楽しさや達成感、自由に創造することのよろこびなど—— たくさんの発見が生まれることを期待しています。</p> | | | | | |
| <p>特別支援学校での 実施における工夫点</p> | <p>子供たちが好奇心をいっぱいに発動させ、ありのまま自分を表現してつくる『星の王子さま』 です。それぞれの障害特性や日々の取り組みを先生方に伺い、ワークショップや公演のプログラムに反映させていきます。 さわる・ふれる・感じることから、身体全体で舞台をイメージできる体験。「好き」なことや「得意」 なことを活かして、「ひとりひとりが主役になる」参加・共演。 子供たちが自信をもって人と関わり、先生・保護者とも一緒に楽しめるよう、安全面にも配慮した 様々な工夫を行います。(詳細は別紙をご参照ください)</p> | | | | | |
| <p>実施可能時期</p> | <p>実施可能時期スケジュール表をご確認ください。</p> | | | | | |

本事業への申請理由

【公演団体名

東京演劇集団 風

】

①本事業に対する取り組み姿勢

子供たちの成長の糧となる、演劇経験を

この事業では、子供たちに本格的な演劇を鑑賞する機会をつくりだすことに加え、舞台への参加共演、そこで生まれる交流を通じ、より演劇に親しみ、彼らが成長していく上で不可欠なさまざまな経験をつくりだしたいと考えています。

いつもの体育館が劇場に変貌する驚きや、同級生や先生と一緒に演劇づくりに取り組む面白さ、そして身近にプロの演劇を鑑賞したことで共有される感動、出演者・スタッフとの交流、家やクラスで生まれる新たな対話など——間違いや失敗・緊張も含めたこれらの演劇をみんなで創造する自由な経験は、それがたった1日の出来事であっても、子供たちが生きていく根拠となり、彼らの成長を支えてくれるものになる、とこれまでの活動の中で、多くの先生方から教えられてきました。

子供たちはとても繊細な感性で、周囲の環境や人・コトから思いもよらぬほど多くのことを感じとり、物事の真実を見極めています。それは年齢や障害の有無に左右されません。子供たちの誰もが、想像し、創造するファンタジーの能力を持ち、誰かのために思いを巡らせ、行動できるアクターであり、芸術家です。

ですから私たちは、表現の技術ではなく、この事業のすべてのプロセスを通して、心の奥底にある想いを表現する喜び、学校や家庭で心に育っている「芸術」に出会い、ひとりひとりの多様な良さを認め合える瞬間を創り出すことを期待し、作品を選び、ワークショップ内容や参加共演・体験交流を考えました。

これまで培ってきた劇団活動を、子供たちの心豊かな成長に活かしたい、そして、今を生きて子供たちの見る力・想像する力を刺激できる創造活動に取り組むたいと考え、本事業に申請します。

本事業への申請理由

② 事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

条件にかかわらず、どんな体育館でも、劇場空間を作り出します。

(大人数でも鑑賞しやすいよう舞台面を30センチかさ上げする基本部材を用意、体育館天井躯体を活かし照明バトンを7本吊り下げる、体育館全体を包み込む9台のスピーカーによるサウンドデザインなど)専門性の高いスタッフがさまざまに工夫し、子供たちがワクワクする劇場を用意します。

小学校一年生から中学三年生、特別支援クラスの全員が、共に演劇づくりに取り組めるよう、**全員での参加共演とワークショップを提案します。**

子供たちのかけがえのない思い出となるよう、先生たちが出演する場面も提案します。

俳優のソングや身ぶり、豊かな色彩と音楽によって、観客のイメージーションを開き、多様な対話をもたらす「星の王子さま」を上演。これから生きていく子供たちに伝えたいメッセージに**焦点を絞り、演出した作品**です。さらに、ワークショップで「星の王子さま」上演台本を一人ずつに**配布**。個々が読み返すことに加え、子供たちが「戯曲」と出会う機会、国語での教材使用、友達・親子間での読み合わせなども可能です。

劇場を作り出す大道具や照明、音響衣装や小道具の仕組み、演劇づくりの裏側を体験するプログラムをもうけます。俳優とのディスカッションや、オペレート体験も行い、**演劇をつくりだすさまざまな要素・仕事に実際にふれる機会を創出**します。

本番当日は体育館を開放し、短い時間であっても子供たちが自由に体験できるよう、先生方に呼びかけます。

ワークショップ実施前に**必ず事前打合せを実施し、公演終了まできめ細やかなやりとりを行います。**

担当者が一貫して連絡を取り合うことで、先生方が公演に対する期待や心配な点を相談できる信頼関係を築きます。そのなかで、個々の学校の要望が反映された参加形態や体験、ワークショップ、本公演のプログラムを作成していきます。

リンク先

No.2

【公演団体名

東京演劇集団 風

】

地球と人間の美しさを描いたファンタジー『星の王子さま』の舞台



星を見上げる王子さま



飛行士との出会い



王子さまの星に咲いた一輪の花



星めぐり～命令ばかりする王様



砂嵐のなかで泉を探す



キツネと王子〈かんじんなことは目には見えない〉



王子さまはヘビとともに砂漠の夜空に消えていく

項目内容
演目概要

リンク先

No.2

【公演団体名

東京演劇集団 風

】

『星の王子さま』の共演参加内容

子供たちの勇気と希望がつくる『星の王子さま』のクライマックス



全校児童生徒が「動き」「歌」「台詞」で共演します。

※ワークショップで事前練習を行います。

共演する子供たち

最上級生が未来への決意を込めて歌う「ぼくの旅はつづく」



最上級生が舞台上に登場、俳優と「歌」で共演して、一幕のラストシーンをつくります。

※公演当日に本番通りの舞台・照明・音響で俳優・スタッフとリハーサルを行います。

先生の出演に客席も盛りあがる「星めぐり」のシーン



星の住人「呑み助」「地理学者」の役で、先生たちに参加を提案しています。

※公演当日にリハーサルを行います。

項目内容
児童・生徒の共演、
参加又は体験の形態

リンク先

No.2

【公演団体名

東京演劇集団 風

】

『星の王子さま』の体験と交流

「劇場」をまるごと探検

本番に向けて子供たちの期待がふくらみ、キャリア教育にもつながる体験を実施しています。俳優や各専門分野のスタッフとの質疑応答、座談会なども開催します。



バックステージツアー



音響のオペレート体験



舞台照明の体験



公演後の俳優との交流

項目内容
児童・生徒の共演、
参加又は体験の形態

「こんなことをしてみたい!」「体験させたい!」という先生方の声をもとに、学校ごとに共演・体験内容をつくります。

- 吹奏楽部の生演奏による共演
- 校外に掲示する公演ポスターの作成
- 舞台設営・撤去作業の体験
- 俳優・スタッフの授業への参加 など

吹奏楽部の生演奏によるカーテンコール



子供たちと先生のかげがえのない思い出づくりに ～『星の王子さま』のフィナーレ～



リンク先

No.3

【公演団体名

東京演劇集団 風

】

ワークショップの実施内容

演劇づくりの始まり— 学校の全員でつくり上げるクライマックス



『星の王子さま』に出会う

この日はじめて、子供たちは演出家、共演する俳優たちと出会います。この出会いをきっかけに、学校のみんなでつくるミュージカル『星の王子さま』が始まります。

※事前に、児童生徒全員に『星の王子さま』上演台本が配布されます。



実演①

共演者と心を通わせて〈動き〉をつくる

[王子さまの台詞でその場に立ち上がり—星に帰った王子さまに別れを告げる]一連の〈動き〉を、王子さま役俳優と視線を交わし、息を合わせて演じます。



実演②

それぞれの想いを〈台詞〉で表現する

飛行士役俳優と一緒に、星に帰った王子さまに呼びかける〈台詞〉を体験します。俳優の演技や表情から個々のなかに起きてきた気持ちを、声と身体で伝え、自分自身のリズム・声・表現に出会っていきます。



実演③

王子さまを支え、〈歌〉で気持ちを届け合う

王子さまとかけ合いで歌うソング「ぼくは行く」を、まず言葉（歌詞）でやり取りします。相手に言葉を届けることで、徐々に王子さまを応援する気持ちを高めていき、王子さまの決意を支えます。



実演④

全員が協力してつくる「通し稽古」

体験した〈動き〉〈台詞〉〈歌〉を基に本番通りに「通し稽古」を行います。互いの表現の違いや豊かさに気づきながら、力を合わせてつくるという創作の喜びを感じていきます。

共演する仲間として俳優やスタッフに親しみを持つよう、舞台や道具の体験、音響のオペレート体験なども行っています。

項目内容
ワークショップの実施形
態及び内容

リンク先

No.3

【公演団体名

東京演劇集団 風

】

特別支援学校における工夫

さわる、感じる、対話する—舞台のイメージを深める体験や交流



手でふれ、衣装の形を確かめる



開演前に俳優たちと交流

- 舞台の広さや大道具、出演者の衣装の色や形を想像できる、開演前の「舞台説明」
- 道具や衣装に実際にさわって体感し、俳優たちにふれて仲良くなるバックステージツアー など

「好き」や「得意」を発揮して、「ひとりひとりが主役になる」



王子さまの星の上でポーズ



手話歌によるフィナーレ

- 身振り・手話歌・楽器の演奏などによる参加共演場面
- 歌や詩の発表などを取り入れた、学校個別のフィナーレ
- 車いすやストレッチャーでの共演、病院内からでも体験できるプログラムの作成 など

みんなで一緒に演劇を楽しむ、さまざまな工夫



バリアフリー版での上演



ライブ中継での観劇後、出演者が別室を訪問

- 舞台手話役者・字幕・音声ガイドを付したバリアフリー版での上演
- 別室で鑑賞する子供たちへのライブ中継
- 俳優の声のプレゼント、点字台本、自己紹介や手話歌を収録した映像の送付 など

子供たちが安心して活躍の場を広げ、子供たち・先生・保護者が一緒に楽しめるよう、安全面に充分配慮した舞台設営・会場づくりを行い、実施します。

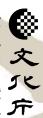
項目内容
特別支援学校での実施
における工夫点

星の王子さま

作 サン・テグジュペリ Saint-Exupéry

訳 内藤濯(岩波書店刊)

構成・演出 浅野佳成



令和4年度文化芸術による子供育成推進事業

巡回公演事業

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力・コミュニケーション能力の育成、将来の社会芸術家の育成や国民の芸術鑑賞力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



東京演劇集団風

『星の王子さま』をみる皆さんへ

俳優(キツネ役) 工藤順子



でしまう時があります。そんなとき私は、この芝居と一緒につくったみんなの声や笑顔、その風景を思い出し、振り返るようにしています。すると、なんだか勇気がわいてくるのです。

みなさんも、心がきりきりして、誰かのことを考える時間も、気持ちもなくしてしまうことがあるかもしれません。でも、大丈夫です。王子さまは、いつでもそばにきて、笑いながら元気に優しく、あなたの心に話しかけてくれます。

王子さまは旅をしながら、疑問を感じたり、不思議に思ったことを「どうしてだろう?」「なぜだろう?」と自分や人に問いかけます。そして、「心で見なければ、大切なことは目には見えない」という言葉に出会います。

みんなも、そんな王子さまと一緒に「自分の大切なものってなんだろう?」と、旅をしてくれたら嬉しいです。そして、ひとりで寂しい旅をする王子さまを励ましてあげてください。自分の夢、友だちや家族のこと、みなさんが見つけた「大切なもの」は、きっと自分や誰かにとっても、自由に未来へ羽ばたくための勇気と希望になると思います。

たまに私は「大切なもの」を忘れ落ち込んで

東京演劇集団風 — 未だ形を採らない豊かさを求めて

1987年に創立。この名前には“自由に風のようにものをつくる”という思いが込められています。1999年には、東京・東中野に専属の拠点劇場〈レパトリーシアター KAZE〉を建設。

劇作家パルトルト・ブレヒトや現代劇作家マティ・ヴィスニョックなどの作品を中心に、現代劇を上演しています。2003年からは、国際演劇祭を開催し、海外アーティストとの交流や共同制作も行なっています。

また、中学生・高校生を対象とした巡回公演にも力を注ぎ、ブレヒト作『肝っ玉おっ母とその子供たち』、ヴィスニョック作『ジャンヌ・ダルク—ジャンヌと炎』をはじめ、6作品が各地での上演活動を続けています。特に創立以来、上演を続けている『星の王子さま』は劇団の代表作です。2017年には創立30周年を迎え、記念企画として、レパトリー作品と新作の上演を2年間にわたり行いました。

2019年からは誰もが一緒に楽しめるバリアフリー演劇の上演を開始しました。



東京演劇集団風
Tokyo Theatre Company KAZE

〒164-0003 東京都中野区東中野1-2-4
Tel.03-336 3-3261 [代] Fax.03-3363-3265
E-mail: info@kaze-net.org URL: http://www.kaze-net.org/

Le Petit Prince



星があんなに美しいのも、目に見えない花がひとつあるからなんだよ——

東京演劇集団風の ミュージカル 星の王子さま

キャスト

王子……………白根有子
飛行士……………緒方一則
キツネ……………工藤順子
花……………渋谷愛
ヘビなど……………栗山友彦 ほか

スタッフ

音楽……………八幡茂
演出助手……………江原早哉香 / 西垣耕造
舞台美術……………松井るみ
照明……………坂野貴也
音響……………酒見篤志
衣裳……………出川淳子
振付……………都司行雄

ちっぽけな星にひとりで住んでいる王子さま。
ある日、その星にきれいな一輪の花が咲きます。
王子さまは喜んで、花と仲良く暮らしますが、ある時ちょっとしたことで
けんかになってしまいます。
そして王子さまは、自分の星を飛び出して、星を巡る旅に出かけます。
王子さまは、さまざまな大人たちと出会いますが、なかなか自分が
住みたいと思う星が見つかりません。
最後に地球にやってきた王子さまは、砂漠で飛行士と出会い、
一緒に旅を続けます。飛行士や一匹のキツネと友だちになることを通して、
誰にでも“かけがえのないもの”があることを知った王子さまは、
花が自分にとって大切な、守らなければならない存在だと気がつきます。
そして成長した王子さまは、飛行士と地球に別れを告げて、
花のために自分の星に帰ろうと決心するのです。
フランスで生まれた作者サン＝テグジュペリは、1943年、第二次世界大戦の
さなかに、この小さな少年の物語『星の王子さま』を書きました。
大きな戦争の時代を経験したサン＝テグジュペリは、この作品に、
“物事の奥深くにある真実を心で見てほしい”“思い出や美しいものを

感じる心を大切にしてほしい”という想いを込めています。
懸命に生きる小さな王子さまの勇気と、美しさや、はかなさが
描かれているこの物語の世界を大切に、
『星の王子さま』を上演しています。

“日本のすべての子どもたちへ”

東京演劇集団風の『星の王子さま』の上演活動に共感した
サン＝テグジュペリの遺族から日本の観客に届けられたメッセージ



日本の小さな子どもたちよ、あなたがたの勇気は、この星ぜんたいにとっての
手本です。太陽がまた輝きだすという希望を失わないでください。あなたがたは
わたしたちからはあまりに遠く離れているので、この目であなたがたを見るこ
とはできません。でも心の目で見ることができのです。そして言わせてくださ
い。星の王子さまはあなたがたとともにいて、あなたがたを助けてくれます。彼
は世界のすべての子どもたちの友だちです。彼はあなたがたの友だちなのです。
——心からの友情を込めて

フランソワ・ダゲイ François d'Agey
(サン＝テグジュペリ財団理事長 Succession Antoine de Saint Exupéry)



B区分で事業を実施するに当たっての工夫や実施体制

【公演団体名

東京演劇集団 風

】

i) B区分に申請する理由

ii) 複数年にわたり同じ地域で実施する上での工夫や、公演及びワークショップの質を向上させるための工夫

iii) B区分団体が行う業務について(「6. B区分の団体のみが行う業務について」参照)の具体的な実施体制

* このスペースに記入しきれないため、「別紙」(計6ページ)にて提出いたします。

B区分で事業を
実施するに当たっての
工夫や実施体制

i) B 区分に申請する理由

■ 子供たち・学校がどう変わったかという視点で

公演から時間が経つなかで、学校・家庭で子供たちのさまざまな小さな変化や新しい行動が生まれた—と先生方や父母から語られることがあります。

「子供たちに自信や達成感、そこから〈自尊感情〉や〈自己肯定感〉が生まれてきた」

「最近は全然話してくれなかった息子と、3年ぶりに会話が弾みました」

「あの日をきっかけに不登校の子も徐々に学校に来られるようになったんです」

「学校行事でのみんなの立ち姿が堂々としています」「運動会が変わった！」

子供たちをいつも見守っている先生方や家族にしか分からない、小さな変化かもしれません。しかもひとつとして同じものではなく、私たちには想像もつかないことばかりです。さらに、このことが学校の活性化や、父母や地域の学校に対する安心感・信頼感、また地域の活性化につながったという意見も聞いてきました。それは本事業が娯楽や気晴らしの提供ではなく、文化芸術の力を教育・子供たちの成長へ活かすために行われる事業であるからこそ生まれる大切な成果であり、私たちの公演の成果を問う指標のひとつではないかと思います。

■ 3年間かけて、学校・地域の期待に応えていく

学校の「本物の舞台芸術を子供たちに見せたい」という声の後ろには、「これからは生きる子供たちのために—」という、言葉にならない願いや期待が多様に存在しています。近年では、本事業を通じて学校の抱えるいじめや不登校といった課題を解決したい、さらには地域活性化への糸口を見出したいと事前に話してくださる先生方も少なくありません。地域や父母からの期待も高まっています。

3年間継続して取り組めることは、ひとつひとつの公演・ひとりひとりの子供たちに向けたより一層の時間と愛情を注ぐこと、子供たち・先生方との対話から発想を得て新たな創造に取り組むことを可能とします。その循環のなかで自分たちの芸術活動の質を高め、多様かつ切実な願い・期待に応えていきたいと考えています。さらに、各地に生まれたこのような小さな変化・成果を地域に蓄積し、地域に文化芸術を根付かせていくことは、大きなやりがいです。

■ ひとりでも多くの子供が、文化芸術に触れられるために

しかし一方で、これまで一度も舞台芸術に触れたことがない、という子供たちもいます。その背景には、離島やへき地といった地理的な条件、地域や家庭の経済的状況、そして障害・病気などの個別の状況から、文化芸術活動への先生方・学校の不安や心配があるのかもしれません。

B 区分団体として、3 年間かけて学校・地域独自の現状を知り、アプローチを模索し、舞台芸術への不安や心配をひとつひとつ取り除いていく——ひとりでも多くの子供たちに本事業の舞台芸術体験を届けていくため、地域での計画的な広報活動・公演活動に取り組めることは、B 区分に申請する大きな理由です。

その継続した対話のなかで、事業の趣旨に賛同・協力する人たちを見出し、結びつけ、子供たちを見守るネットワークの構築にも、微力ながらも取り組んでいきたいと思えます。同じ地域の同年代の子供たちが障害や個別の差異に関わらず一緒に見て、一緒に泣き、笑う——感動を共有できる機会が生まれてくること。そして、3 年後には学校・地域が主体になって、子供のための文化芸術活動が行われるようになる——。そのための地盤と環境を 3 年間かけて整えていきたいと考えています。

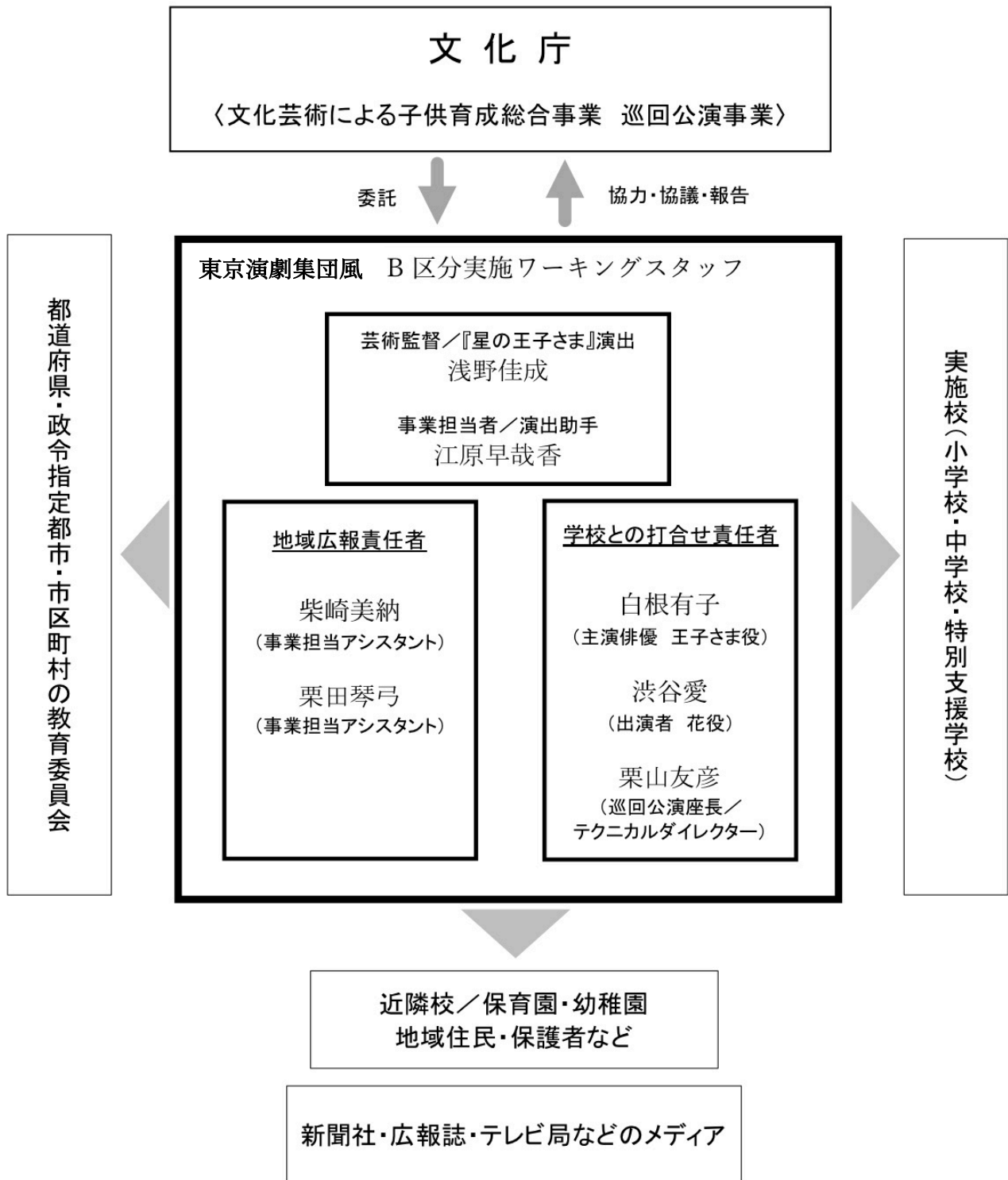
一回一回の公演に全力で取り組む責任と姿勢を持って、B 区分に申請いたします。

ii) 複数年にわたり同じ地域で実施する上での工夫や、公演及びワークショップの質を向上させるための工夫

| | |
|---------|---|
| 実施決定 | <p>実施校を訪問し、実施前の調査・打合せを行います。学校の抱える教育課題、重点的に取り組んでいる活動、子供たち個々の状況・地域の特色などを伺い、合同開催や父母への呼びかけを含めた実施内容・子供たちの取り組むプログラム内容を協議します。また、B 区分の意義をしっかりと伝え、広報協力・地域への発信を依頼します。</p> |
| ワークショップ | <p>演劇づくりの面白さを実感し「私にもできた！」という達成感を得られることは、子供たちの本公演に向けた期待感を高め、子供たちの多様な行動を生み出します。そのため、ワークショップには必ず作品の演出家浅野佳成が赴き、子供たちの指導にあたります。</p> <p>-----</p> <p>ワークショップから本公演までの期間にも、「演劇づくり」を展開させ、子供たちの活躍の場を創り出します。子供たちがそれぞれに好きなことを持ち寄り、オリジナルポスターの制作や掲示、近隣の保育園・幼稚園の幼児に向けた台本の読み聞かせ、公演の招待状を手を高齢者施設に歌を届けるなどの学校個々の取り組みを提案し、劇団員も一緒になって取り組みます。手仕事や対話、表現など、多様な要素で成り立っている演劇との多面的な出会いを生み出します。</p> |
| 本公演 | <p>条件が整わない体育館であっても、入念な下見や打合せをもとに設営計画を作成。子供たちが本格的な演劇を感じられる舞台設営を行います。そのプロセスやスタッフの仕事ぶりを身近に見られることで、子供たちに創意工夫・協力することの大切さを伝えます。また、子供たちがリラックスし楽しんで鑑賞できるよう暗幕やストーブ・冷風機も持参。「体育館の条件や気候によって事業を諦めなくていいんだ！」先生方の安心感を、事業への信頼感・継続へとつなげていきます。</p> <p>-----</p> <p>高い表現力を持ってドラマの軸を担い、子供たちと関わり合い共演する俳優(王子役・飛行士役・花役・ヘビ役)並びに、体育館設営を熟知した舞台監督・照明・音響スタッフが3年間すべての公演・ワークショップを担当します。さらにキャリアを活かした授業参加も実施。「なぜこの職業についてなのか」「演劇づくりの面白さ・苦労」などの講演を通じ、子供たちの「演劇」についての理解を深め、さまざまな仕事を知り、働くことのやりがいなどを学べる機会を創出します。</p> <p>-----</p> <p>学校の要望に沿って、障害のある子供たちも一緒に取り組めるバリアフリー版での上演も行います。情報保障だけでなく、学校・子供たちの現状に柔軟に対応した事前の舞台説明やバックステージツアーなども行い、全ての子供たちが安心して共に楽しめる環境を創り出します。さらには、小中学校と近隣の特別支援学校との合同開催を呼びかけます。共に「星の王子さま」に取り組み、共有する感動体験を、新たな交流へつなげてほしいと思います。</p> |
| 公演後 | <p>学校・先生方との交流を継続させ、事業を体験した率直な実感・その後の子供たちの様子をヒアリング。その声をもとに公演・ワークショップ内容を省み、上演作品・演出の見直し、実施プロセスの向上を図ります。また、子供たちの興味関心の高まりに応じて、オルタナティブな芸術交流(派遣事業を活用したワークショップや文化行事での協働など)の持続も提案します。</p> |

iii) B 区分団体が行う業務についての具体的な実施体制

すべての業務を連携させ、事業の向上に資するものとするため、3年間継続して専門で業務に取り組む以下のワーキングスタッフを配置します。



| 業務内容 | 劇団の取り組み内容 |
|----------------------------|--|
| ① 都道府県・政令指定都市の教育委員会の訪問・広報 | <p>ブロック内の全ての都道府県、政令指定都市の教育委員会を訪問、本事業についての広報活動の継続して実施します</p> <p>都道府県の担当者の理解、意識の高さは、地域全体の学校・子供たちに大きな影響をもたらします。本事業の紹介だけでなく、教育的効果や学校現場の取組みを伝え、各地が抱えている現状や課題をヒアリングし、地域毎の広報計画を話し合います。</p> <p>また、担当部署に加え、生涯学習課・学校教育課・特別教育課などにも事業の教育的意義を伝えていくことで、地域の教育活動を推進する人々に、本事業を広報していきます。</p> |
| ② 実施校所在地の市区町村の教育委員会の訪問・広報 | <p>実施校所在地の市区町村、ならびに近隣の市区町村の教育委員会の訪問、広報活動を実施します</p> <p>実施校所在地と同時に、都道府県担当者からのヒアリングをもとに、事業実施の少ない市区町村への広報も行います。地域・市区町村によっては、さまざまな理由から、事業を全く知らない、担当者が定まっていない自治体もあることが予想されます。</p> <p>学校との距離が近く、個々の学校の取組みをよく知っている市区町村の教育委員会からの後押し・熱意は、学校にとって事業を身近に感じ、事業をより効果的に行う大きな手助けとなります。市区町村が主催する校長会等での広報にも取り組むことで、地域ぐるみの鑑賞機会を創出していきます。</p> |
| ③ 本事業について広報 年一回以上の校長会等で | <p>都道府県・政令指定都市が主催する中学校・小学校・特別支援学校それぞれの校長会や研究会に出向き、広報を行います</p> <p>長時間を割くことが難しい場合もあるため、現場の様子や事業趣旨を端的に伝えられる短い映像資料、さらに、事業の大まかな全体取り組みスケジュールを用意。</p> <p>先生方にとっては、教員同士の口コミ(実際の経験談や実感)も、最良の判断材料となると思います。劇団の校長会出席と同時に、事業を経験した先生方からの発信・広報も促していきます</p> |
| (補足) 業務に使用する資料 | <p>上記の①②③の業務に対して、以下のような資料を作成・持参します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化庁が作成している事業全体をまとめたパンフレット 2. 前年度実施での地域の子供たち・先生方の感想をまとめた報告資料 3. 事業名を明記した公演ポスター 4. 現場の様子を10分ほどに編集したダイジェスト映像 5. 巡回公演事業全体の年間実施スケジュール表 <p>教育委員会担当者自らが、学校や地域に広報可能なパブリックな資料作成・情報共有を図っていきます</p> |

| 業務内容 | 劇団の取り組み内容 |
|---|--|
| <p>④ 文化庁・事務委託先の承認を得ること より効率的な調査計画を提案し</p> | <p>担当ブロックの決定後に、調査計画を作成し文化庁に提案。協議したのちに広報に取り組みます。</p> <p>現在、追加で考えられる広報対象は以下の通りです</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の新聞社・地元広報誌、テレビ局・ケーブルテレビ、ラジオ局など(学校・子供たちの事業への取り組みを地域住民に発信していくため) ● 全国版の紙面を持つ新聞社(文化庁が子供たちのために行われている取り組みを広く発信していくため) ● 全国区の校長・教頭会、教員研修会、特別支援学校長会へのアプローチ(全国区で行われている本事業の教育的効果を広報するため) <p>広報、メディアやロコミを通じ、地域の障害児の父母会や商店街などにも働きかけ、福祉・まちづくり・子育て—といった分野を越えた理解を深め、子供たちを見守る多様なネットワークを強化していきます。</p> |
| <p>⑤ 情報共有・受け入れを行う 鑑賞人数の拡大に向けた</p> | <p>合同開催校の紹介など、鑑賞人数の拡大に向けた情報共有、保育園・幼稚園等への広報や受け入れについても積極的に行います。</p> <p>まず実施校の期待や要望をお聞きし、各校のプログラムを作成します。例えば、小中一貫教育を行っている、近隣の特別支援学校との連携を図っているなど、学校の日頃の取り組みと結びつけ、合同開催などの実施を提案。</p> <p>保護者や地域の評議委員、読み聞かせや交通安全のボランティアなど、学校はさまざまな地域の方とのつながりを有しており、地域コミュニティの核でもあります。学校を支える地域住民、保育園・幼稚園への呼びかけはもちろん、乳児を連れのお母さん、近隣の作業所で働く方、高齢者施設の方々など、幅広い世代の人々が、鑑賞・参画できる機会を創出します。</p> |
| <p>⑦ 文化庁への協力 ⑥ 他の実施団体の 視察希望に応じる</p> | <p>文化庁ならびに他の実施団体の要請に応じ、視察に応じることはもちろん、説明会等において意見交換や事例の紹介などを行います。また事業の向上に資する文化庁の取り組みに全面的に協力します</p> <p>ブロック別などでの異分野間での意見交換や取り組み方法、新しいアプローチの発見・共有を通じ、ブロック状況把握、ブロック全体の活性化・課題解決に活かしていきます。</p> <p>また、文化庁が必要としている情報を聞き取り、実施の中で蓄積・集計したデータを随時提出します。</p> |
| <p>⑧ 報告書作成・提出 ①～⑦についての</p> | <p>事業終了後、①～⑦についての報告書を作成して文化庁に提出します</p> <p>①～⑦のなかで見えてきた事業の特色や課題・改善点を報告・提案し、事業の向上に資するとともに、現地での事業実施の様子や浸透具合、先生方の期待や事業への想いを文化庁に報告します。</p> <p>また、公演を鑑賞した地域住民や保護者へのアンケート調査にも取り組み、その結果を報告書に記載。事業効果を多角的に検証します。</p> |